

横浜市インフルエンザ流行情報 7号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

《トピックス》

インフルエンザが流行しています。

【概況】

2019年第46週(11月11日～17日)の定点^{※1}あたりの患者報告数は、横浜市全体で**3.24**と、前週の1.31^{※2}から増加しています。

年齢別では、10歳未満の報告が全体の64.7%、15歳未満の報告が全体の80.4%を占めています。

学級閉鎖等は、第46週までに小学校を中心に合計47件、患者数586人が報告されています。

今シーズンの第46週までの市内の迅速診断キットの結果は、累計で **A型 94.7%**、**B型 5.2%**、A・B型ともに陽性0.1%と、A型が多く検出されています。なお、全国のウイルス分離・検出状況^{※3}では、AH1pdmが多く検出されており、横浜市での検出状況も同様の状況です。また、市内学級閉鎖施設の検査の結果は、現在のところ全てがAH1pdmでした。

今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されるため、正しい手洗い^{※4}、予防接種等による予防や、早期受診などの対策^{※5}が重要です。

※1 定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内153か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

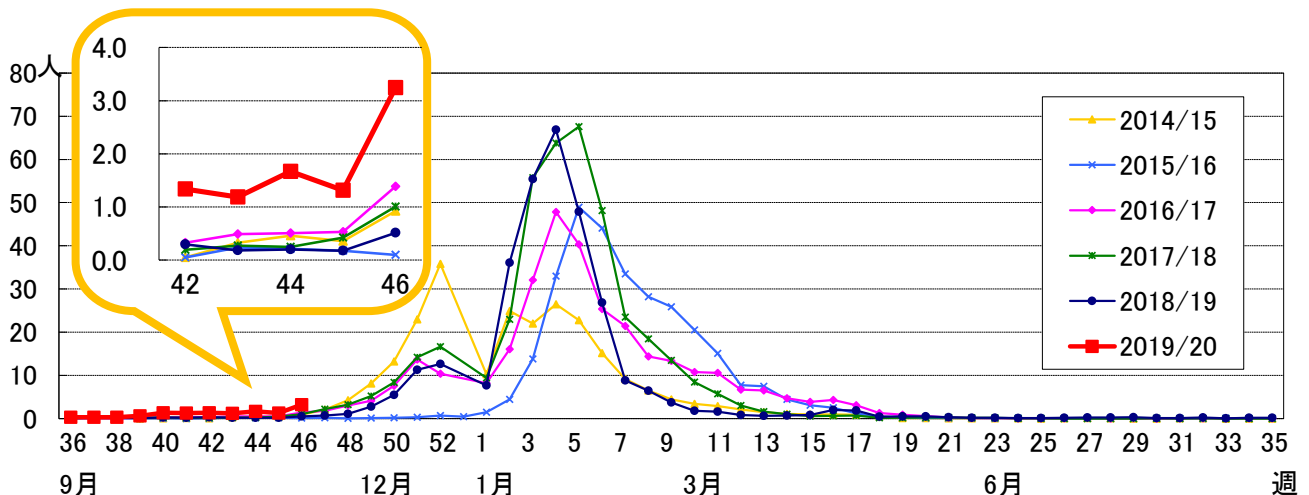
※2 追加報告があったため、以前お知らせした情報から報告数が更新されています。

※3 [インフルエンザウイルス分離・検出速報\(国立感染症研究所\)](#)

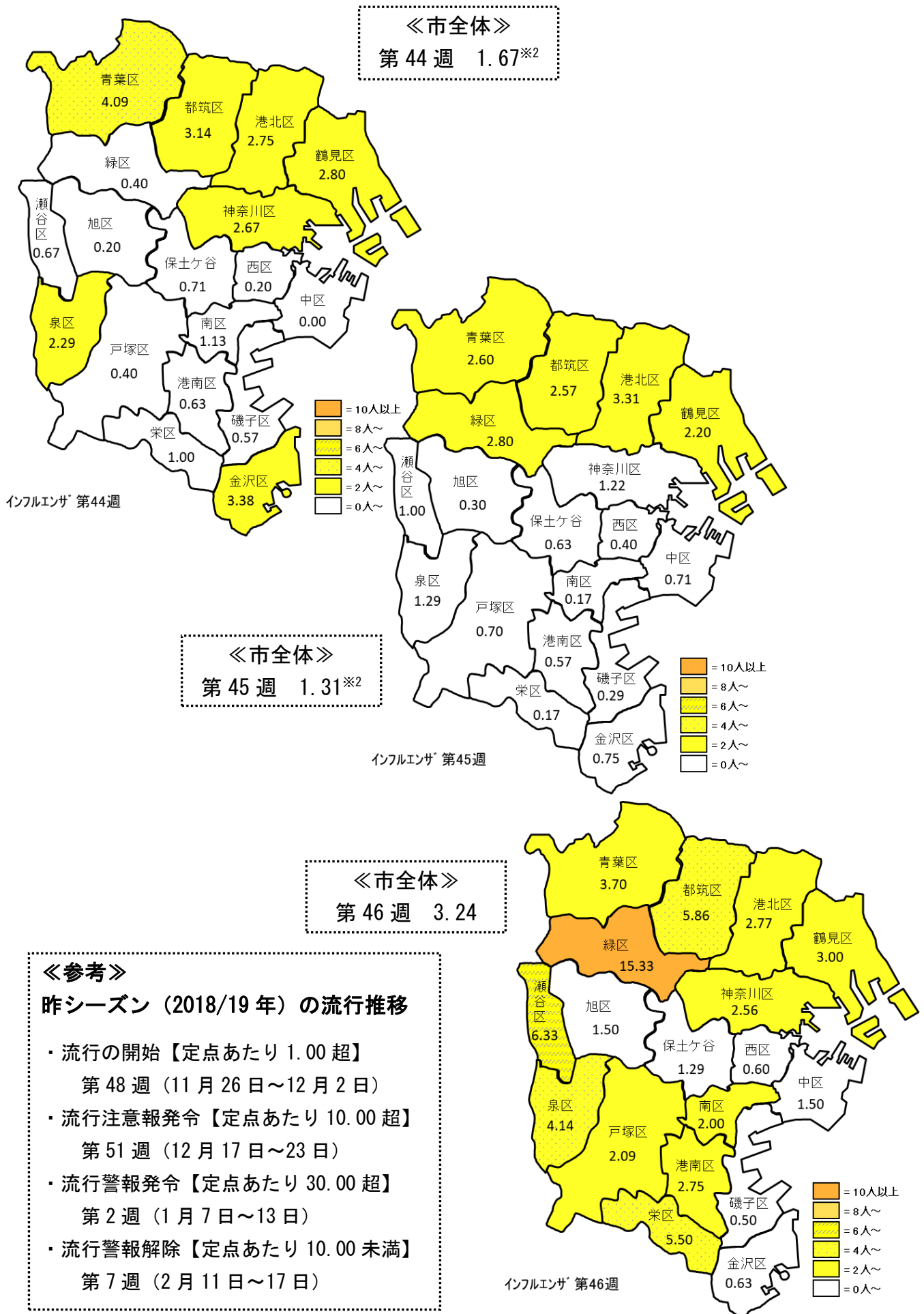
※4 [横浜市保健所ホームページ](#)(「正しい手洗い方法」および、掲示用ポスター「石けんで『手』を洗おう」をトップページに掲載しておりますので、是非ご活用ください)

※5 [市民向けインフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

1 市内流行状況:市全体の定点あたりの患者報告数は、第35週で0.15、第36週で0.29、第39週で0.66と増加し、第40週で1.32となり、流行開始の目安である1.00を上回りました。その後は横ばいで推移していましたが、第46週は3.24と増加しています。

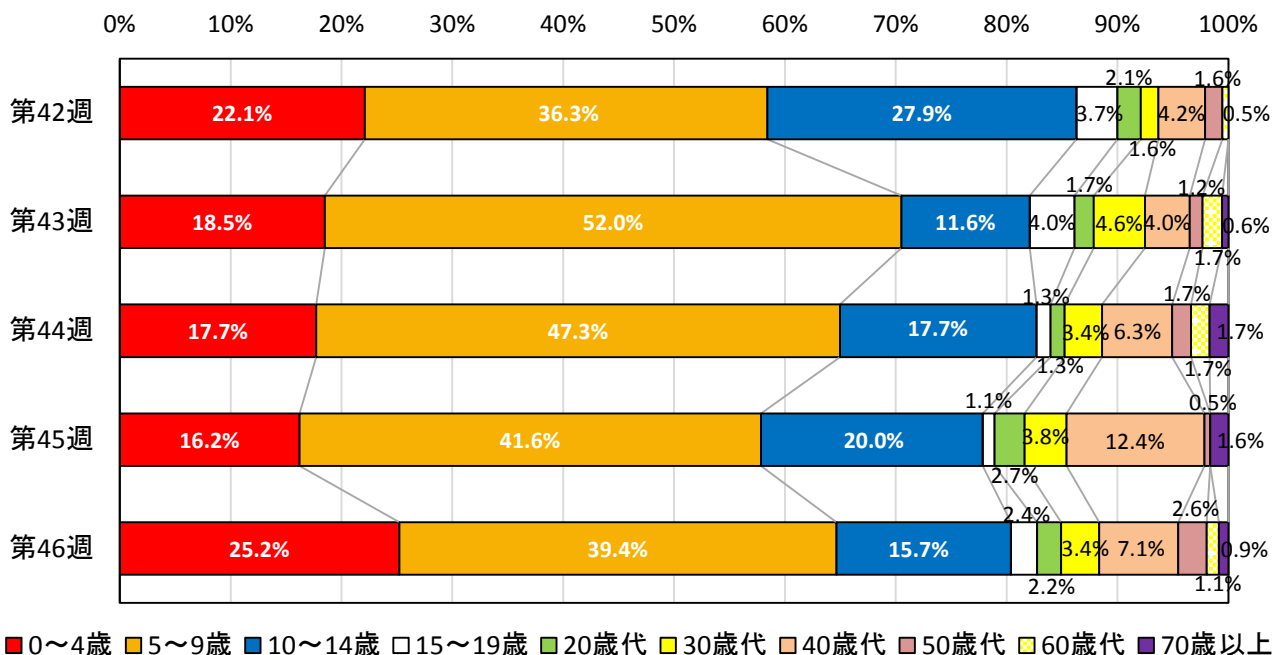


2 地図で表した直近3週間の区別流行状況(塗り分けの数字は定点あたり報告数)



3 年齢層別集計:第 46 週の患者年齢構成は、10 歳未満が 64.7%、10 歳から 15 歳未満が 15.7%となっており、15 歳未満が全体の 80.4%を占めています。

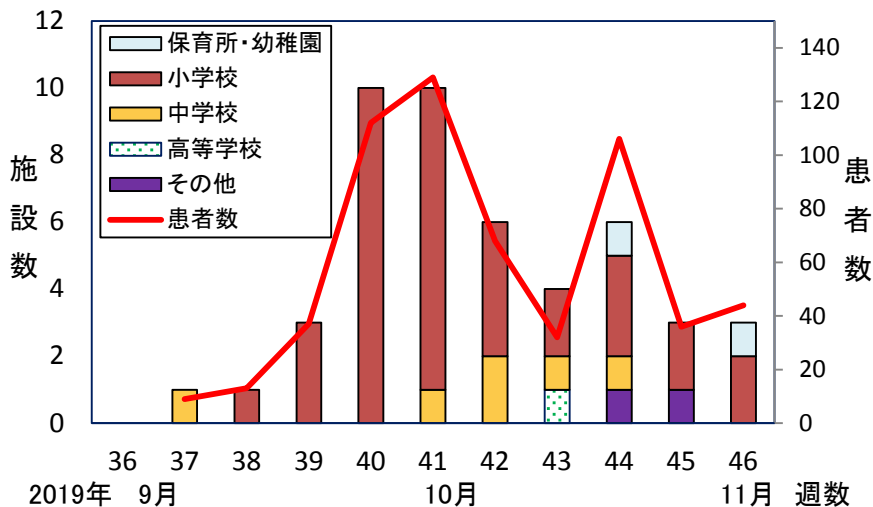
年齢層別患者割合



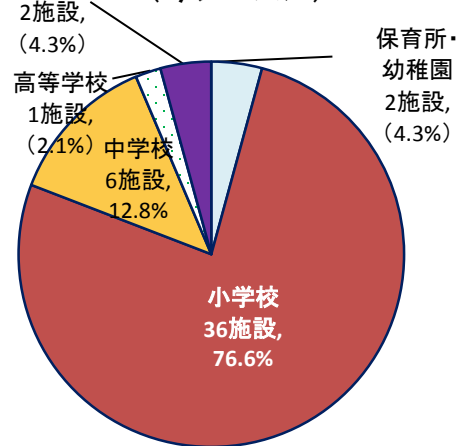
4 市内学級閉鎖等状況:第 46 週は 3 件の報告(保育所・幼稚園 1 件、小学校 2 件)があり、報告された患者数は 44 人でした。

今シーズンの累計では、第 46 週までに 47 件の報告があり、報告された患者数は延べ 586 人となっています。報告された施設の割合は、保育所・幼稚園 4.3%、小学校 76.6%、中学校 12.8%、高等学校 2.1%、その他 4.3%となっています。

学級閉鎖等の施設数と患者数の推移



学級閉鎖等の施設の状況 (今シーズン)



今シーズンの学級閉鎖が報告された 14 区 14 施設(各区 1 施設)のウイルス検査結果では、検査中の 3 区 3 施設を除く 11 施設全てから AH1pdm が分離・検出されています。

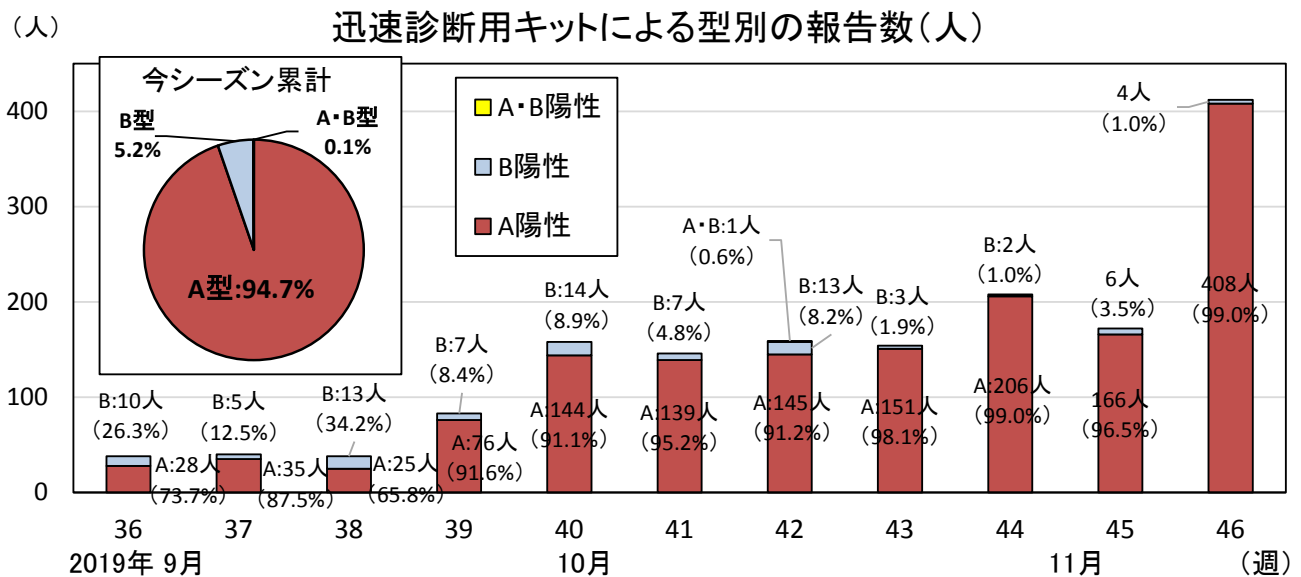
5 入院サーベイランス:市内基幹定点医療機関^{※6}におけるインフルエンザ入院患者は、第46週に5人が報告され、今シーズンは現在までに累計10人(10歳未満8人、70歳以上2人)が報告されています。

入院時の診療内容が把握されている事例で、ICU入室、人工呼吸器の使用、頭部CT検査、脳波検査等が実施された重症肺炎や脳炎が疑われる入院患者が、第44週に1人(5歳未満)、46週に2人(5歳未満1人、85歳以上90歳未満1人)報告されています。

※6 基幹定点:患者を300人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には4つの基幹定点があります。

6 迅速キット結果:第46週の迅速キットの結果は、A型99.0%、B型1.0%で、A型がほとんどを占めています。今シーズン累計では、A型94.7%、B型5.2%、A・B型ともに陽性0.1%となっています。

横浜市の患者定点医療機関における
迅速診断用キットによる型別の報告数(人)

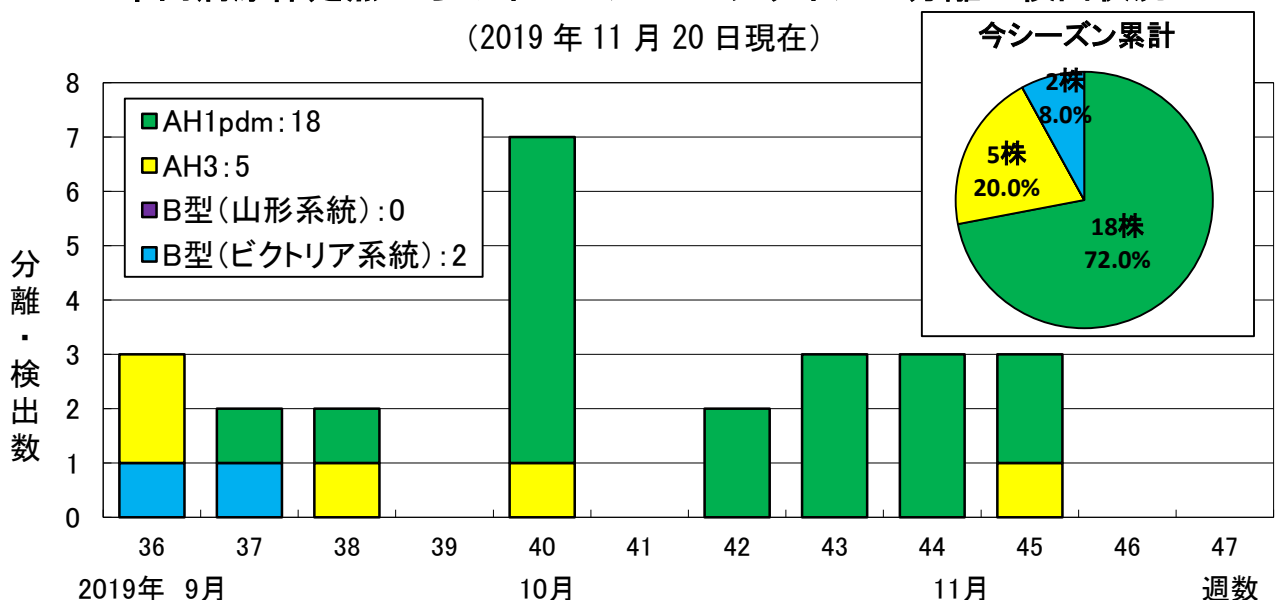


7 市内病原体検出状況:市内では病原体定点^{※7}からAH1pdm(18株)、AH3(5株)、B型(ビクトリア系統)(2株)が分離・検出されており、全国の分離・検出と同様の傾向と考えられます^{※3}。

※7 病原体定点:採取した検体を衛生研究所に送付する医療機関で、市内に17か所あります。うち、インフルエンザについては12か所にて採取されています。

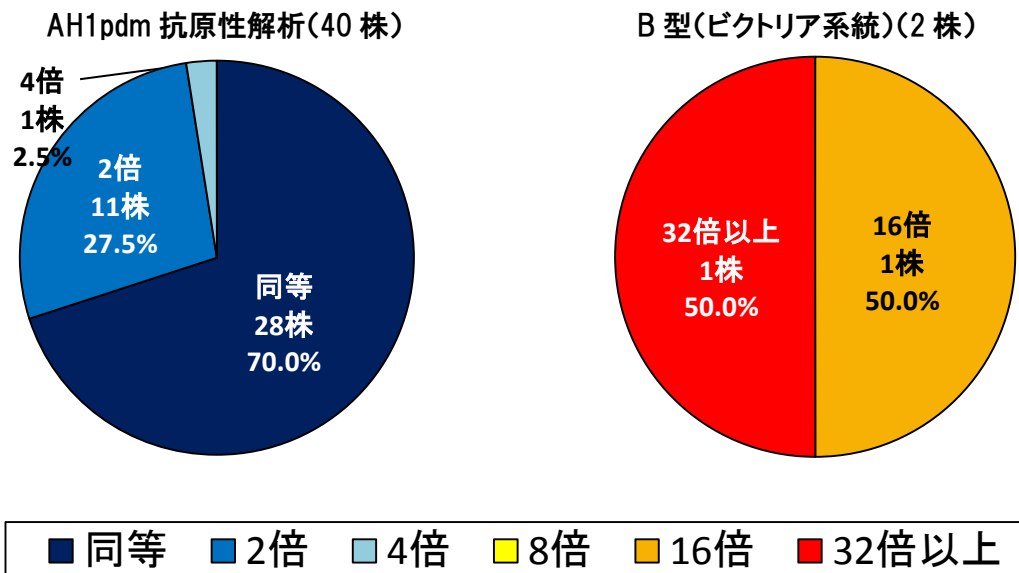
市内病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出状況

(2019年11月20日現在)



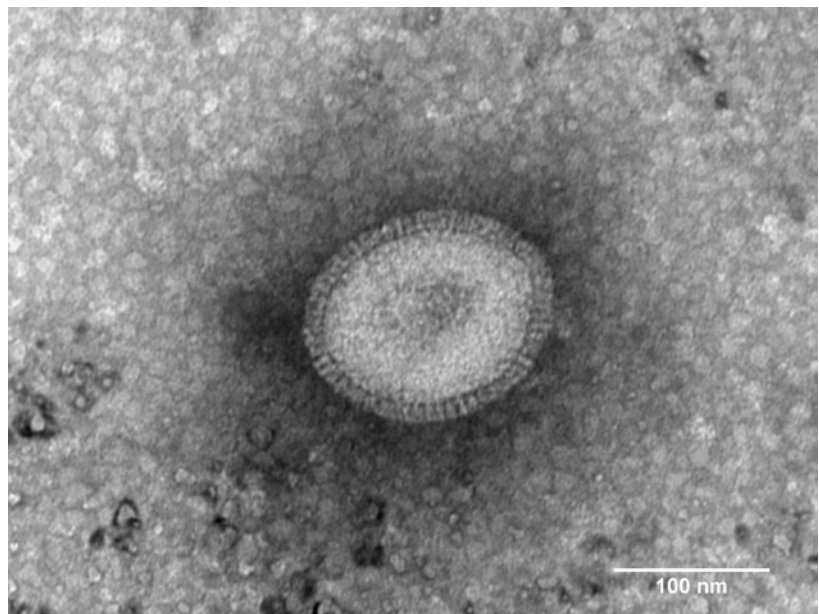
8 分離株の抗原性解析:市内で分離された株(細胞培養した 42 株、11 月 11 日現在)のワクチン株との抗原性解析(HI 試験)を実施しました。ワクチン類似とされているのは 4 倍以内です。あくまでもウサギの血清を使っているため参考値ですが、現在のところ、AH1pdm(40 株)はすべて 4 倍以内、B 型(ビクトリア系統)(2 株)は 16 倍および 32 倍以上となっています。

(参考値)市内で分離された株の抗原性解析(ウサギ免疫血清)



インフルエンザウイルスの
電子顕微鏡写真(6 万倍)

撮影:
横浜市衛生研究所



【参考リンク】 近隣自治体の流行状況 ○[神奈川県](#) ○[川崎市](#) ○[東京都](#)
全国の流行状況 ○[国立感染症研究所](#)

【お問い合わせ先】 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045 (370) 9237
横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045 (671) 2445